

福岡

地域福祉活動職員の

まなこ

地域福祉活動推進のため

No. 62

2009年10月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会

★報告 地域福祉の考え方を再構築する研修会 生活世界からの地域福祉論へ

私たちは住民の声をきちんと聞いているのでしょうか？
住民の声からコミュニティワークにつなぐことが
できているのでしょうか？



本年度の地職連研修事業は、生活世界からの地域福祉論を切り口に、私たちに関わる『地域福祉』をシリーズで考え、再構築する研修として、8月にスタートしています。第3回目が9月17日(木)、直方市総合福祉センターにおいて開催されました。今回は、これまでの講義を振り返りながら、生活世界とシステムの関係を探り、後半はグループワークを行いました。

(報告/上毛町社会福祉協議会 中村 麻衣)

◀後半は事前アンケートをもとに4班に分かれ「どのようにして住民の声を聞いているか」「それをどう実践につながっているか」をテーマにグループ討議が行われました。

生活世界とシステムの関係

「夕鶴」を元に考える

「フー……」の音が研修会場に響き渡った。

これは、木下順二の「夕鶴」(次ページ参照)のあらすじを皆で輪読した場面でのことです。この物語をもとに、生活世界とシステムの関係を考えました。

初めての織物は生活に必要なものだったはず(生活世界)。しかし、その織物が運ずにより(システム)高値で売れることが分かり、そのシステムを利用すると、だんだんそれが生き方になっってしまう。生活世界がなければシステムは発生しませんが、システムが発展したら生活世界を抑えてしまいます(生活世界の植民地化)。

つうは、システムに生き始めると、ひよりの声が聞こえなくなってきました。それは何故か。私たち社協ワーカーは住民の声をきちんと聞いているだろうか、と考えさせられる内容でした。

このように、今回の研修では、これまでの講義を振り返りながら、さらに内容を深めていきました。

生活世界とシステムの

交換関係

ハーバーマスは、現在の社会を生活

★「夕鶴」のあらすじ

与ひよりの妻「つづ」は美しい織物を織る。その織物を織っている間は決して覗かないでほしいと言ふ。ところが、知り合いの運子によってその織物は都で高く売れることがわかる。その金は与ひようにも入ってくる。

これに味をしめた与ひようはつづに織物をたたくさん織らせ。つづは、与ひようが都や金の話をすると彼の言葉が聞こえなくなり、彼が離れていってしまつのではないかと不安である。

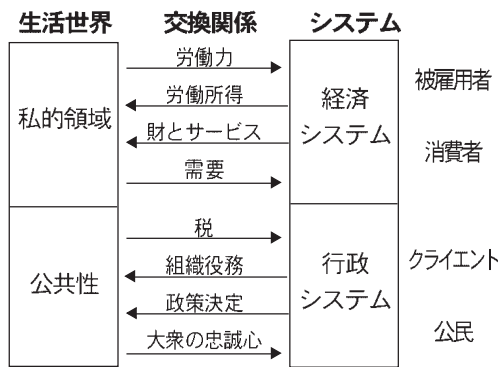
もつと金儲けがしたい運子は、つづが織っているところを覗いてしまふ。すると、鶴が自らの羽をぬいで織っていたのだ。その鶴は、与ひようがかつて助けた鶴だった。正体を見られ悲しんだつづは姿を消し、一羽の鶴が天高く飛び去っていった。

世界とシステムの2層で捉えました。システムとは市場と国家(行政官僚制)であり、生活世界は家族、地域(コミュニティ) 市民的公共性としています。システムは生活世界から資源を獲得し、生活世界はシステムからの財や行政サービスによって物質的再生産するという、交換関係にありました。しかし、現代はシステムが発展しており、生活しているというより、システムにより生活させられている状態になつてい

ます。このことを「生活世界の植民地化」の状態(例、人間の部品化、ホームレス、派遣切り...)と言いました。

【出展 ハーパーマス(1987) 310頁一部修正】

【システムのパースペクティブから見たシステムと生活世界との関係】



システムが抱える問題点とあらたな公共

システムが抱える問題点をより具体的に考えていく中で、今年度の日本社会福祉学会の会長挨拶が紹介されました。この中では、「国や市場、規制緩和、市場原理主義といったシステムが問題を抱えている今、『新しい公共』に期待がかかっている」とされています。

また、ある参加者が、「両親がグループホームを利用してはいる家族の話を紹介し

ました。週末だけでも両親に自宅で過ごしてもらいたいが、グループホームの利用者は在宅サービス(ホームヘルプサービスや福祉用具貸与等)が利用できず困っているという事例で、「システムである介護保険」と、「生活世界に生きる家族」の対立の問題が表れました。

このように、システムに植民地化されている姿から、「住民は対象ではなく主体」といった「あらたな公共」の考え方が登場してきました。

そのためには、生活世界から声をあげることが大切です。生活世界の思いを個人のもので終りにせず、システムに影響を与え、システムを制御していく、生活世界の声と思いを「あらたな公共」として表現していくことです。

「あらたな公共」には、地域での助け合い活動などの実践系と、声を政策に反映させていく言説系の2つの形があります。

しかし、生活世界自体も、男尊女卑や年功序列等の問題を含んでいます。それを、解決するには、結局は話し合っていくしかないのです。

グループワーク

住民の声をどのように聞いていくか?

後半は、事前アンケートの、①地域でのニーズ調査についてどんなことをやっているか、②調査やニーズ把握で何に困っているか、悩んでいるか、③調査やニーズ把握から実践への結びつきはあるか(どのようにしているか)をもとに、グループに分かれて話し合いました。

①どのようにしてニーズをキャッチしているか

まず、ニーズ調査としてどんな事をやっているかということでは、

- マップづくり
- 座談会
- アンケート調査
- 地域に出ていき直接いろんな方の話をきく
- 訪問し聞き取りをする
- サロン中の聞き取り
- 相談業務
- 個人的なつながり
- 当事者団体やボランティア団体等からの関わりで
- 専門機関との連絡
- いろんなところにアンテナを張る



などで、各社協がニーズの把握に取り組んでいました。

★A市の福祉マップづくり

個の生活課題の聞き取りではないが、自分の住んでいる地域内で住民みんなが共有した方がいような住環境などの問題を、住民と共に調査し、区内の福祉マップを作成して危険箇所や要改善箇所などを把握している。

★B町のアンケート調査

ひとり暮らし高齢者の生活実態に係るアンケート調査を実施予定。高齢化率が高く、孤独死が起きても地域が関心を持たない状況におかしさを感じ、実施することになっている。

★C市の相談業務

「社協には、〇〇という職員がいるから相談に行ってみれば」と言ってもらえるよう、普段の業務から地域住民との関係づくりを意識している。

②調査やニーズ把握で

困っている事 悩んでいる事

次に、調査やニーズ把握で何に困り、悩んでいるかという点では、以下のような意見が挙がりました。

知り得たニーズに対して、職員間での協議と共通認識ができていない。行政との関係では担当係により対応が異なり、縦割りの弊害を感じる。

区長や民生委員や地域の人の協力が得にくい。

隠れたニーズの把握ができていない。何から手をつければ良いのかわからない。

個人情報があり情報の把握が難しい。課題を聞いた時に、社協としてどう動いてよいか迷う。

本当に調査が必要な方に対して調査できているのか。

いろんな人から話を聞いて、食い違いが生じ本人の本来の課題を把握することが難しい。

関わりが薄く、情報を聞き出せない。以上のような意見がありました。

そして中でも、ケースワークでは福祉サービスにつなぐことができて、コミュニティワークに繋がっていないという悩み多く挙げられました。

③ニーズ把握から実践への

結びつきはあるか

そして、最後に、実践への結びつきはあるか。(どのようになっているか)という問いに対しては、

当事者からの相談を受け、ボランティア講座を開催し、講座終了後、受講者と一緒に組織化をした。

不登校、引きこもり問題で学校に定期訪問することで、学校と共同して支援介入するようになり、児童相談所にも強く意見、要望が言えることができるようになった。

広報等でボランティアを呼びかけ組織化。

福祉マップづくりを実施することで、行政区内に福祉活動への意識を高め、福祉委員だけでなく、他の方々も安否確認などに協力したり、住環境問題の改善活動にも自主的に実践する動きへつながっている。

当事者団体への働きかけ(活動の見直し、新たな活動づくり)や、行政へのアクションの支援をしている。

という意見もありましたが、実践への結びつきとなると出ていないとの意見が本当に多かったです。

最後に

最後に

今回の話し合いの中で、改めて、日常の業務の中で、同じようないろいろな悩みを抱え、それをどう実践へ結びつけるのか苦慮していることが分かりました。そして、自分の出来ないことへの不安、分らないことへの戸惑いで、立ち止まってどうこう考えるのではなく、まずは、自分が動かなければ、何も実践へ結びつけることはできないということとを、話し合いの中で教えていただきました。

この研修期間中に、自分はどこまで行動に移すことができていたのか、どうこう考える前に、今日から動いてみます。





inふくおか

第4回九州4県社協職員合同研究会議 私は、人と地域と こんな風に向き合っています

“知る”は楽しみなり 地域を知る
自分を知る名物ワーカーの取り組みを知る

■開催期日■

2010年2月13日(土)～14日(日)

■会場■

福岡市健康づくりセンター等複合施設

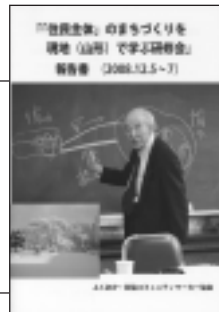
■主催■

大分県市町村社協職員連絡協議会
佐賀県市町社会福祉協議会職員連絡協議会
長崎県市町社会福祉協議会連絡協議会
福岡県地域福祉活動職員連絡会

※詳細は後日お知らせいたします。

★社協ワーカー必読本

『「住民主体」のまちづくりを 現地(山形)で学ぶ研修会』 報告書



山形会議を知る渡部剛士氏の講演録。「地域」「住民主体」「組織化活動」…社協の原点がここにあります。

※1部1,000円で販売しています。
購入の場合は下記までどうぞ。

◎うきは市社協/國武

〒839-1321

福岡県うきは市吉井町347-1

TEL 0943-76-3977

FAX 0943-76-4329

編集後記

—編集者のつづやき—

「私の子が通う小学校は、普通小学校。入学当初は、お友達とけんかするなど、よくトラブルを起していました。そこで、担任の先生に相談したら、保護者の皆さんに子どもの障害のことを話し、分かってもらえるよう、取り計らってくれました。その時の先生に感謝しています。」

今では、お友達もでき、楽しく通っています。周りの関わりで本人が成長するし、本人がいることで周りも成長するんですね」

「私の子どもの場合、発達障害の中でも、言語性の学習障害で、言葉を出すことが苦手です。障害をなかなか理解されず、先生にもよく怒られますし、子どもからもいじめられています。できないところでバカにされ、できるところは周りがしゃくにさわるようで、いじめにつながったみたいですが、いずれも、発達障害のある子の親のつづやきです。」

同じ発達障害でも、周りの関わり方あり方によって、本人が暮らしやすくなったり、暮らしにくくなったりします。発達障害の問題は、本人の問題というよりも、本人家族を取り巻く社会環境の問題と、言い換えることができるのかもしれない。それはつまり、社会福祉協議会の課題でもあるのではないかと考えています。

(U) (Y)

★発行者

福岡県地域福祉活動職員連絡会

★事務局

〒839-1321

福岡県うきは市吉井町347-1

うきは市社会福祉協議会内

TEL 0943-76-3977

FAX 0943-76-4329

E-mail f-chishokuren@ukiha-shakyo.or.jp

今後の日程のお知らせ

【日程】	【会場】
10/19(月)	筑後市総合福祉センター
11/13(金)	春日市総合福祉センター
12/22(火)	福岡市市民福祉プラザ
1/25・26(月・火)	うきは市総合福祉センター

★問合せ / 福岡県地域福祉活動職員連絡会
〒839-1321 うきは市吉井町347-1
(うきは市社会福祉協議会内)

「地域福祉」の考え方を
再構築していく研修会